

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600215
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム大城の里 (ユニット名 ひまわり)
所在地	福岡県久留米市北野町乙丸3-13
自己評価作成日	令和 5年 5月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_i_022_kami=true&jig4091600215yosyoCd=4091600215-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和5年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳納連山と筑後川、田園と畑の中に在り、四季折々の花々や自然に触れ合える環境の中、すぐ近くには西鉄電車甘木線大城駅があり、交通機関にも恵まれています。その中でご利用者一人ひとりが安心して、その人らしい生活が遅れるよう支援し、笑顔と笑い声があふれるような生活を送って頂けるよう努めています。また施設内の広い空間の中で、ご利用者の残存機能を活かしながら、ご本人のペースで生活が出来るよう生活歴等の把握に努めています。ご家族にも安心して頂けるように、ご本人の状況や状態を細目にお伝えしています。また、地域との交流にも力を入れ、ご利用者が安心して暮らしているよう、日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でその人らしく笑顔と笑い声のあふれる暖かい暮らし」を理念に、敷地外へ散歩や車で外出したり、ご利用者のペースで生活できる様支援している。又、多様な行事を計画し、笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃や行事への参加、地域の小学校や保育所との交流を行う等、地域との繋がりを大切にしながら交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書面ではあるが運営推進会議時に、民生委員さんや地域包括の職員の方に、施設行事を地域の方々に紹介してもらっている。又、地域の小学校や保育所と交流を持ち、触れ合う中で子供たちに認知症について知ってもらえる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での運営推進会議の中で、施設での活動やサービス提供の内容、行事や事故等の報告を行い、後日意見等を連絡いただき、回答している。又、いただいた意見を参考に、サービスを見直す等活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面ではあるが運営推進会議にて施設の実情やご利用者に対するサービスの取り組みについて状況の説明を行っている。又、その都度連絡や相談も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の意思を尊重し、可能な限り自由に生活していただけるよう支援している。 又、ケア会議で身体拘束の内容について話し合い、ケアについて確認しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について法人内外の研修に参加したり、法人や事業所で定期的にアンケートを実施している。 又、委員会を通じて、虐待の内容や予防対策等理解を深め、ケア会議でも話し合い、虐待が見過ごされる事が無い様周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修等を通じて、権利擁護に関する制度について学び理解を深めるよう努めている。又、玄関にパンフレットを置いたり、必要に応じてご家族等に制度の説明を行い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等説明し、了承を得たうえで契約を交わしている。又、制度改定等がある場合、ご家族やご利用者に不安が無い様疑問点を含め十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努め、その都度同意書をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や手紙・電話等でご家族にご利用者の生活の状況等報告を行い、意見や要望等伺いながら生活に反映できる様にしている。又、ご利用者との会話やコミュニケーションの中から思いを汲み取れる様努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやケア会議の際、職員の意見や提案を話し合える機会を設けている。その内容を運営会議や業務改善会議の場、又法人事務局に報告や提案し、職員の意見を反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員尾後力や実績等については、年2回面接と自己評価を行い、その上で職員の仕事への取り組み方を見ながら評価を行っている。又、資格取得や知識を深める為、職免で研修に参加できる体制を整える様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢や性別によって採用対象から排除することはなく、子育て支援や希望する勤務時間の調整も行っている。又、職員には能力を辞意分に発揮できるよう職場の環境整備にも努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や研修等に参加し、ご利用者の思いを引き出せるような言葉かけを心掛け、自己決定しその人らしく生活できるよう職員も学びに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での全体研修や勉強会、委員会活動を行い、職員のケアの質の向上に努めている。又、外部研修は職員の経験等を考慮し、参加できるように体制を整え、ZOOMでの参加やweb・書面での学習にも力を入れている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の合同勉強会や委員会等に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上につなげている。又、外部研修にも参加し、ネットワークづくりに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者の生活歴等やご家族の要望、不安な事をお聞きし、情報を職員が把握する事でできるだけ安心して生活が送れるように努めている。又、不安で落ち着かない時はご本人に寄り添い気持ちを傾聴したり、ご家族と電話で話していただく等対応している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接等で現在の状況や要望、不安な事を十分に聞き取りを行っている。又入居後は連絡を取り合いお話を傾聴したり、生活の様子をご家族にこまめにお伝えする事で、ご家族との関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期においては、ご利用者やご家族に話を聞きながら、必要としている支援を見極め提供できるよう努力している。又、より良いサービスが選択できるよう他のサービスの紹介や提案、利用の対応にも努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除の手伝い、レクリエーションの提案等してもらいながら、一緒に会話を楽しみ生活を共に支える関係づくりに努めている。又、ご利用者の希望に沿った学習や運動、趣味等を職員も共にを行い、寄り添ったなじみの関係を築ける様にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日常の様子等は2か月毎に状況報告を送付したり、詳細についてはその都度報告や相談しご家族と共に支える関係づくりを築いている。又、面会はコロナの為、シートや窓越しで行っていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族、親戚等にホームへ面会に来ていただいたり、電話を掛けていただく等関係が途切れない様に心掛けている。又、現在はコロナの為できてはいるが、ご家族と連携し外出や帰省を支援できる体制を整えている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でコミュニケーションが取れる方やそりが合う合わない等考慮し、席の配置を考えている。又、家事活動やレクリエーションではご利用者同士が自然に関わりあえるよう、職員が間に入ることもしながら支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は経過をご家族に尋ね、状況を確認し今後の相談や支援ができるよう努めている。又、退所された方のご家族が来訪されたり、連絡をいただいた際は、お話を伺い関係性を大切にしたい支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者の思いや意向を汲み取ったり、食べたい物や嗜好の希望を聞き、取り入れている。又、意思疎通が難しい方はご家族へ尋ねたり日々の関わりの中で感じたことを基に検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご利用者やご家族から生活歴等を確認し、これまでの暮らしの把握に努めている。又、新しく得た情報は職員間で共有し、ニーズに沿ったサービスが提供できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の確認や交代時の申し送りで職員間での情報の共有を図り、一人ひとりの暮らしの現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに基づいたケアチェック表に記録し、ケアが現状に即しているかモニタリングを行っている。又、ケア会議で職員全員がケアプランの情報を共有したり、ご利用者やご家族、関係者の意見やアイディアをいただき、現状に合ったケアプランを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から取り組んで切る運動や家事活動、余暇の過ごし方等をケアチェック表やケース記録に記入し、実施状況や問題点等を会議や申し送りで共有し、ケアプランの見直しに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、あらゆるニーズに応じた柔軟なサービスができるよう、ご家族が何時でも泊まれる様にしている。又、面会時でもできるだけ時間を問わず対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校や保育所の児童との交流を行ったり、花を見に外出する等豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の希望によるかかりつけ医との連携を密に保ち、日々のバイタル測定や受診ノート等を活用しながら情報を多職種間で共有し、適切な受診ができるよう支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定や気付き等の情報を共有・相談している。又、異常時にはすぐ連絡が取れる状態を確保し、適切な受診・看護が受けられる様協働している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関にADLの状態等を情報提供したり、ご家族や病院に状態を尋ね、治療の状況を確認している。又、入院先のカンファレンスに参加し情報の共有を行い、ご家族の希望を確認しながら、早期退院に向けての連携を図り、支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時看取りについての説明を行っている。又、重度化や終末期のあり方についての説明は、医師の協力のもとできるだけ早い段階で行い、事業所でできる事をご家族にご理解いただき、関係者が同じ方針で支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法や救命救急等の講習、急変時に医師・看護師への連絡等含めた勉強・訓練を行っている。又、ご家族に緊急時の連絡や搬送先等の確認もその都度行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、年2回ご利用者も参加にて日中と夜間想定訓練を行っている。又、職員には災害時のマニュアルの内容を把握してもらい、どのような動きをする必要があるのか周知徹底している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの状態を考慮しながら、その方に合った言葉かけを行うことで思いを汲み取り、その方にだけ聞こえるように対応する事などプライバシーを損ねないよう努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者がやりたい事をコミュニケーションを取る中で引き出し、自己決定できるよう働きかけたり、月1回お一人ひとりに希望食や行きたい所等の意見を尋ね、思いや希望を表出できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、起床や食事の時間等を希望される時間にずらしたり、入浴を変更したりと一人ひとりのペースでその方の希望に沿った支援を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にご利用者が好んでいた衣類を持参していただき、季節や気分にあった洋服を選んでもらえるように言葉かけしている。又、訪問美容室を利用し清潔感のある髪型にする等その人らしい身だしなみを心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や好みの食べ物・献立を聞き取り、毎日の献立に組み込んでいる。又、できるご利用者に食材の筋取りや皮むきなど下準備を手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの体型や状態に合った食事量や形態で提供し、毎食水分量を含めた摂取量を記録し把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしていただくよう促し、見守りや一部介助等にて口腔内の確認を行っている。又、義歯使用者は夜間洗浄剤につけたり、月1回歯科往診で、口腔内のチェック・指導をしていただき、口腔内の状態把握に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間や状態を見ながらトイレへ促す言葉かけも行い、できる限りトイレでの排泄に努めている。又、その方の日中や夜間に合った布や紙パンツ・パットを使用しながら、使用しているパット等があるのか検討・変更もしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日下肢運動や体操等で身体を動かしてもらい、時には腹部マッサージを行っている。又、毎日ヨーグルトを提供したり、水分量の調整、食事で食物繊維の多いものを取り入れる等行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴の曜日や時間は決めているが、一人ひとりに希望を尋ね、その方によってお湯の温度や時間も変えながら、入浴を楽しんでいただけるようにしている。又、体調により、入浴出来ない時は清拭を行い、清潔を保てるようにも努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡時間を設けているが、ご利用者によって居室で休んだり、リビングのソファでテレビ鑑賞や日光浴をして過ごされたりとお好みに過ごしていただいている。又、夜はその日その方によって居室の温度や寝具の調整、電気の明るさ等にも気を付けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の処方箋を確認し情報を共有できるように記録に残したり、看護師に尋ねる等で薬について理解を深めるようにしている。又、薬の変更があった場合は状態の変化を観察できるよう細かく記録し、確認がしやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者やご家族等から「生活歴を伺い、やりたい事や出来る事を行える時間や役割を持てるよう努めている。又、季節の行事や食事、レクリエーション等楽しんでいただける様工夫している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と一緒に散歩に出たり、天候を考慮しながら行事として予定を立て、花見等色々な所へ出かけられる様支援している。又、コロナの為、回数は少ないが自宅に少し帰る等、ご家族にも協力していただいている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者が欲しい物や希望される物があれば職員やご家族と買い物に行ったり、職員が購入してくる等の支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知り合いの方に電話をしたり、手紙を書きたい等の希望があれば、それぞれやり取りができるよう準備し、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花や飾りなどの設えを工夫し、室温やテレビの音量にも配慮し、ご利用者がゆっくりでき居心地良く過ごせる空間作りを行っている。又、躓きやすい物や通路に邪魔になる物は置かない等、安全にも考慮している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビが見える位置や日が当たる場所にソファを置いたり、壁に季節の歌の歌詞を貼ることで、ご利用者が墨な場所に座ったり、歌が好きなもの同士で唄う等自由に過ごしてもらえる様工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を自分の部屋だと思ってもらえる様写真等を飾ったり、使い慣れた机やタンス、テレビ等を持参していただき、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力の維持の為、廊下歩行や足の運動、体操等を職員が言葉かけや見守りしながら、ご利用者にも声を出して楽しんでもらえる様支援している。又、パズルや塗り絵、公文学習や野菜の皮むき等、ご本人にやりたい事を選んでもらい、活動を決められるよう努めている。		